

# 令和4年度新潟市文書館企画展 「萬代橋三代のあゆみ」

## ■はじめに

初代の萬代橋は、明治19（1886）年11月に完成しました。その当時、信濃川の川幅は現在よりも広く、全長430間（約782m）の橋でした。広大な信濃川に架かる萬代橋の姿は、以後、新潟を象徴する風景になりました。

その後、2度の架け替えが行われ、現在の6連アーチの萬代橋は昭和4（1929）年に開通しました。信濃川両岸の埋め立てにより、橋の長さは307mとなり、アーチは当時国内最大の大きさでした。

萬代橋は新潟市の東西をつなぐ橋として、交通の動脈の役割を果たしてきました。また、昭和39（1964）年の新潟地震にも耐えたその姿は、市民の心のよりどころにもなり、平成16（2004）年には重要文化財に指定されました。

今回の企画展では、萬代橋に関する文書館所蔵資料を紹介します。新潟市のシンボルでもある萬代橋のあゆみを振り返ってみましょう。



昭和40～50年代頃 新潟市の東西をつなぐ萬代橋（当館所蔵）

空から見た新潟市街地の様子。写真手前には4代目新潟市役所庁舎（昭和33年竣工）、榎谷小路を挟んで小林百貨店が見える。萬代橋を渡った先には新潟駅がある。